

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019年 4月 28日 提出

1. 研究課題名	
もうひとつの京舞「篠塚流」、その歴史と独自舞踊および音曲の記録検証 (Shinozuka School 'Kyō-mai' Dance: Documenting and Preserving its History, and Music and Dance Forms)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Scott P. Koga-Browes(すこつと こが ぶらうず)	国際関係学部 准教授
3. 研究分担者 (合計:2名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
古賀ブラウズ美穂(こがぶらうずみほ)	KB Media 作詞家
梅田裕子／篠塚瑞桜(うめたにゆうこ／しのづかざいおう)	京舞篠塚流 名取 師範

4. 研究課題の概要(300字程度)
<p>現在、京舞といえば井上流が名高く資料も多いが、京舞にはもう一つの流派「篠塚流」が現在も受け継がれている。</p> <p>興りは井上流とほぼ同時期の 220 年程前、三世中村歌右衛門の振付師であった篠塚梅扇（文三郎）が初代家元となり、江戸中期から明治にかけて京の町では「篠塚流」が盛んに舞われていた。三代目の不埒から一時断絶するも、昭和 38 年に 5 代目梅扇により復興。</p> <p>京都祇園祭の「小町踊り」奉納はじめ、上賀茂神社「観月祭」、二条城オペラ参加など国際的にも評価を高めているが、残念ながら近年の資料が分散している。高齢となられた現お家元から歴史を聞き取り、独自の音曲や詞を掘り起こし、踊りをモーションで記録するなどし、貴重な京都文化遺産を失う前に保存すべきと考え。</p>
5. 研究成果の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・立命館大学ひのき舞台にて、瑞桜氏および梅晃氏を迎え舞踊撮影。しかしながら準備や会場設営等に支障があると判明。後日改めてカメラやライトを準備し、篠塚流今出川稽古場にて試験撮影を行う。同時に新たなカメラマン小島氏を迎え、来年度より今出川稽古場の舞台にて撮影を再スタートすることとなった。</li> <li>・瑞桜氏、梅晃氏のご尽力ご説得により、篠塚流 6 代目現お家元 篠塚瑞穂氏より、個人所蔵の資料などを拝見できる許可をいただき、お力添えいただくお言葉を賜る。 まずは、過去舞台の記録ビデオテープの一部をデジタル化（著作権所有権は、流派およびお家元帰属）。また現お家元から、御父上でもある五代目お家元梅扇氏や篠塚流オリジナル演目の成り立ちなどをうかがう。</li> <li>・昭和 36 年の篠塚流復興に尽力されその歴史などを纏められた田中緑紅先生のご遺族を訪問し（お家元、瑞桜氏、梅晃氏）、資料などの拝借や転用をお願いし、何点か貴重な資料の原本などをお借りする。</li> </ul>

・2018年11月、瑞桜氏の渡英に際し、英国での京舞紹介を企画。ロンドン大学 SOAS、シェフィールド大学 JPS、ノッティンガム大学ジャパンサティの3か所にて、京舞舞台を実施、すべての会場が満席で盛況に終わる。

・田中緑紅先生の遺稿を中心に、昭和36年までの歴史資料を整理開始。また昭和36年以降の歴史について、上方芸能などの書籍をひもときながら整理をスタート。同時に、幕末の維新三傑 桂小五郎に嫁した、芸妓幾松（木戸松子）と篠塚流のかかわりについて調べ始める。幾松の孫にあたる方にお話を伺えるよう手配中。